

『人口学研究』原稿執筆要領

1. 原稿は、横書きとし、A4判を使用し、ワープロにより作成する。
2. 論文等の題名は、なるべく簡略にし、印刷した場合に2行にならないように配慮すること。副題も、なるべく1行に収まるようにすること。
3. 文章の構成項目の表示は、原則として次のとおりとする。
大項目：1. 2. 3.
中項目：1) 2) 3) … または 1.1 1.2 1.3 …
小項目：a b c … または 1.1.1 1.1.2 1.1.3
文章中の列挙は、(1), (2), (3)…、その下位の項目の場合は、(a), (b), (c)…とする。なお、「はじめに」、「おわりに」の前には、1., 2., 3. …の番号は付けない。
4. 図や表は、本文には含めず、別の用紙にプリントアウトし、一括してまとめて、本文の後に置き、本文中には、図表番号を赤字で右側欄外に注記して挿入箇所を明示する。
 - 4.1 図や表には、それぞれの通し番号を付して表題を付ける。また、必ず「単位」と「出所」または「資料」を明記する。なお、「出所」とは、原数値をそのまま用いる場合であり、「資料」は、原数値を加工した場合をいう。

図表を他の著作物から引用する場合には、出所を図表の下に明示し、必要に応じて原著者または著作権所有者から使用許可を得ておくこと。
 - 4.2 統計表において、該当項目のない場合や数値不明の場合は…、数値が皆無である場合は—で表示する。
5. 文献からの文章の「引用」は、原則として1件につき200字以内にとどめ、原文が訳文のいずれかを記載する。
6. 「注」と「引用文献」は、本文の末尾にこの順でそれぞれ分けて記載する。
 - 6.1 「注」には、(1), (2)…のような一連番号を付する。
 - 6.2 本文中における、「注」を付す場所には、()内に数字を入れ、右上付き文字で示す。
 - 6.3 「引用文献」の記載は、日本語文献と外国語文献とに分け、この順に、日本語文献は、50音順、外国語文献は、アルファベット順の姓名配列とする。同一著者については、発表年月順とする。
 - 6.4 本文および図表等における文献の引用方法は、原則として、著者の姓と発表年次を記載し、2度目以後の引用も同様とする。

本文の場合：(例) 舘 (1963), Samuelson (1964)
文末の場合：(例) (舘 1963), (南 1960, 舘 1963)

 - 6.4.1 同一著者に同一年次の文献がある場合、a, b, …を添える。

(例) 中川 1940a, 中川 1940b
 - 6.4.2 共著者は、和文文献では、「他」、欧文文献では et al.によって示してもよい。

(例) 上田他 1930, Davis et al. 1956.

6.4.3 著者名が長大な場合や無記名、刊行年次が不明な場合などには、これに代わる適切な方法を用いる。

7. 「引用文献」の記載は、下記の方式によること。

7.1 和文文献

7.1.1 単行本：著者名，（共著者名），出版年，『書名』，（シリーズ名），出版社。

（例）館稔，1963，『人口分析の方法』（形成選書），古今書院。

7.1.2 論文等

(1) 単行本収載論文：執筆者名，（共同執筆者名），出版年，「論文名」，編集者名，『書名』，出版社，ページ。

（例）寺尾琢磨，1996，「マルサスとマルクス」，南亮三郎・館稔編，『マルサスと現代』，勁草書房，158－200 ページ。

(2) 雑誌収載論文等：執筆者名，共同執筆者名，出版年，「論文名」，『雑誌名』，巻号，刊行月，ページ。

（例）中川友長，1940a，「将来人口の計算」，『人口問題研究』第1巻第2号，5月，13－15 ページ。

7.2 欧文文献

著者名は、原則としてアルファベット順とする。邦訳のある場合は、（ ）内に記載する。

7.2.1 単行本：著者名，（and 共著者名），出版年，書名（イタリッタまたはアンダーライン），出版地，出版社。

（例）Samuelson, Paul A., 1964, *Economics : An Introductory Analysis*, 6th ed., New York, McGraw-Hill. (都留重人訳『経済学—入門的分析—』岩波書店, 1966年)

7.2.2 論文等

(1) 単行本収載論文：執筆者名（and 共同執筆者名），出版年，“論文名”，編者 ed.，書名（イタリッタまたはアンダーライン），出版社，ページ。

（例）Chakravarty, Sastra and Echaus, Robert S., 1961, “Choice Elements in International Planning”, Rosenstein-Rodan, Paul N. ed., *Capital Formation and Economic Development*, London, Allen & Unwin, pp.68-82.

(2) 雑誌論文等：執筆者名（and 共同執筆者名），出版社，“論文名”，雑誌名（イタリッタまたはアンダーライン），巻号，刊行月，ページ。

（例）Lokanathan, Paul S., 1968, “Regional Co-Operation and Development”, *Indian Economic Journal*, 15-13, January/March, pp.396-398.

7.3 予定刊行物には、発行月または発行年に続いて、和文の場合には（予定）を、英文の場合には（forthcoming）等を付記する。

8. 文章は原則として常用漢字，現代かなづかい，算用数字を使用し，平明な表現を用いる

こと。

- 8.1 外国の国名・地名・人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則として、カタカナ書きにする。なお、一般化していない地名・人名・機関名・会社名など固有の名称は、最初に限り、その原語（ローマ字使用）をカッコ内に付記する。

(例) マルサス (Thomas Robert Malthus) は…。マルサスの指摘によれば… アジア太平洋経済社会委員会 (Economic and Social commission for Asia and the Pacific, ESCAP) が…。ESCAP は… カオプラ村 (Tambon Khaophara) には…。カオプラ村の人口は…

- 8.2 外来語、外国（中国を除く）の度量衡および貨幣の単位は、カタカナ書きにする。ただし、パーセントは記号 (%) を使う。図表では、一般的な単位は、記号 (m, g, t など) を用いる。

(例) コーヒー、ガラス、メートル、トン、ドルなど。

- 8.3 数字は、原則として算用数字を使う。ただし、本文中では、コンマを用いず、万以上の数字には、万、億、兆などの文字を用いる。

(例) 23 億 500 万円、1 万 2000 人、第 4 次 5 カ年計画、表 1

9. 英文原稿についても、上記の要領に準ずる。